

環境経営レポート

“時の流れと共にエコアクションの取り組みも流れに合わせていく”

群馬キセキ販売株式会社

作成：2019年5月10日

対象期間：2018年1～12月

目次

◇企業理念・環境経営方針	-----	2
◇事業活動の概要	-----	3～5
◇環境活動の実施体制	-----	6
◇環境経営計画	-----	7
◇環境経営目標(本社)	-----	8
◇環境経営目標(営業所)	-----	9
◇環境活動取組結果	-----	10～11
◇環境活動取組評価	-----	12～14
◇環境関連法規への違反、訴訟の有無	-----	15
◇代表者による総評	-----	16

企業理念

私たち群馬中セキは、農業機械と農業関連商品（製品）の販売やアフターサービスを通じて、季節の移り変わりや、太陽と水、そして、大地の恵と言った地球の自然と深く関わる農業と共に生きております。私たちは農業を支援することで日本の食を守り、より安全な食材を消費者に供給する一端を担うことが使命であると考えております。そのために環境に優しい事業活動を行うとともに、我々の事業活動が、地域社会や地球環境と深く関わり合っていることを認識し、お客様や地域との相互信頼のもとに、事業活動を通じて環境の維持、改善に積極的に取り組み、考え、行動することで、環境に対する継続的改善を実行することを目指します。

環境経営方針

- 1、環境に関連する法規制等を遵守します。
- 2、環境マネジメントシステム（EA-21 の考え方）を効果的に運用し環境問題のリスクを回避します。
- 3、環境保全のため、次の重点事項の取り組みを行います。
 - 1) 当社本社事務所にかかる資源・エネルギーの削減に取り組みます。
 - 2) 廃棄物の削減に努めます。
 - 3) 水使用量の抑制と適正使用に努めます。
- 4、当社本社事務所の環境経営レポートを公表し、環境システムを継続的に改善しながら環境コミュニケーションの積極的なレベルアップを行います。
- 5、農業の環境に及ぼす影響を農業機械・資材の販売を通して最小限に抑えるための支援を行っていきます。

この環境経営方針は、要求があった場合、社外の人にも公開します。

2019年5月10日

群馬中セキ販売(株)最高責任者
代表取締役 木村 英男

事業活動の概要

(1) 事業社名及び代表者名

群馬中セキ販売株式会社

代表取締役 木村英男

(2) 所在地

本社__前橋市天川大島町 116

(3) 営業拠点

前橋営業所 __前橋市天川大島町 116

高崎営業所 __高崎市木部町 356-1

太田営業所 __太田市西本町 40-35

嬭恋営業所 __吾妻郡嬭恋村大笹 188-1

伊勢崎営業所 __伊勢崎市連取町 1815

渋川営業所 __渋川市半田 2730-3

館林営業所 __邑楽郡板倉町西岡 400-1

宮城営業所 __前橋市柏倉町 371-1

赤堀営業所 __伊勢崎市赤堀今井町二丁目 1286-5

昭和村営業所 __利根郡昭和村糸井 6441-40

西部営業所 __富岡市藤木日影 257-1

育苗センター __渋川市赤城町栄 793-1

系統推進部 __前橋市亀里町 1307-1



事業活動の概要

(4)環境保全関係の最高責任者・管理責任者及び連絡先

最高責任者	木村 英男	代表取締役
環境管理責任者	佐藤 幸治	取締役
連絡先	電話	027-263-3211
	FAX	027-263-1154

(5)事業の規模

設 立	昭和 36 年 6 月 5 日
資本金	4,500 万円
本社従業員数	26 名(H30/12)
総従業員数	103 名
本社事務所延べ床面積	1,163 m ²

(6)事業内容

各種農業機械、公園緑地管理機械の販売 修理
農業資材、肥料、農薬、土壌改良材の販売
自動車、家電品、健康医療器、格納庫等生活関連商材の販売
ライスセンター、育苗プラント等の施設推進事業
コイン精米機事業、コイン無人販売機販売
損害保険、生命保険代理業務

事業活動の概要

(7)対象組織

本社事務所：認証・登録日：2006年3月30日

本社整備工場（2007年認証登録）

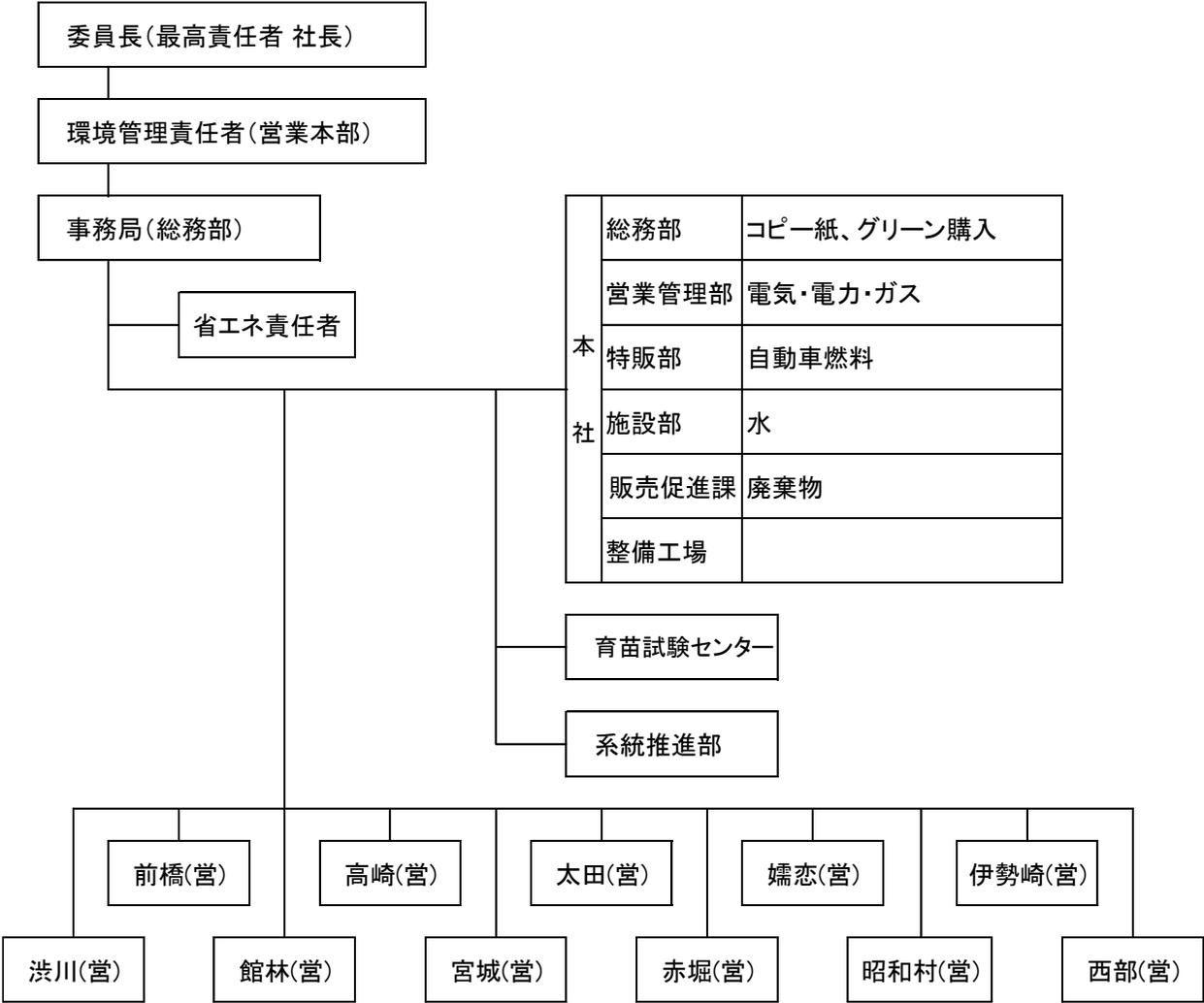
前橋営業所（2012年3月認証登録）

高崎営業所、太田営業所、嬭恋営業所、伊勢崎営業所、渋川営業所、館林営業所、宮城営業所

赤堀営業所、昭和村営業所、西部営業所、育苗センター、系統推進部

（2016年3月認証登録）

環境活動の実施体制



環境経営計画

管理部署	取組項目	取組事項
総務部	コピー用紙の管理 再生品の購入 グリーン購入	コピー、印刷の適正化、ミスコピーの防止 両面コピー、裏面利用の推進 古紙及び再生紙の推進 リサイクル品の推進 グリーン購入の推進
営業管理部	電力の使用 ガスの使用	照明機器管理 照明点灯箇所のチェック スイッチの管理 運転時間の適正化 室内温度のチェック 空調機器の管理 自然光を取り入れる工夫
施設部	水の使用	日常的な節水の推進 毎月のメーター確認(漏水チェック)
販売促進部	廃棄物	マニフェストの管理 収集場所の整理整頓 処分業者の処理場見学
特販部	自動車の燃料	暖気運転の抑制 急発進急加速の抑制 運転記録簿の管理 走行距離の把握管理
営業所・修理工場	上記全般 作業場での環境負荷の軽減	上記全般 近隣住民への騒音、悪臭等の防止 危険物等の使用及び管理 廃油の取扱い 工場内の整理、整頓、清掃

環境経営目標(本社)

項目	目標
地球温暖化防止	エネルギー起源のCO2排出量削減
水使用量削減※	水使用量削減
廃棄物削減	排出量削減
グリーン購入	グリーン購入の推進
環境配慮製品	環境に配慮した製品の販売促進

項目	基準値	中長期単年度目標「本社」					最終目標
		2016	2017	2018	2019	2020	
電力 (kWh)	80,101	79,060	78,098	77,217	76,336	75,455	75,478
		1.3%	2.5%	3.6%	4.7%	5.8%	
LPガス (kg)	170.6	166.3	162.1	158.0	153.9	149.8	149.8
		2.5%	5.0%	7.4%	9.8%	12.2%	
車燃料 (リットル)	25,932	25,673	25,413	25,232	25,076	24,947	24,947
		1.0%	2.0%	2.7%	3.3%	3.8%	
二酸化炭素 (kg-co2)	97,327	96,354	95,380	94,407	93,434	92,461	92,461
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
コピー用紙 (枚)	90,830	89,013	87,197	85,834	84,472	83,564	83,564
		2.0%	4.0%	5.5%	7.0%	8.0%	
水 (m3)	526	513	500	487	476	466	466
		2.5%	5.0%	7.5%	9.5%	11.5%	
産業廃棄物 (トン)	40.5	39.9	39.5	39.1	38.7	38.3	38.3
		1.5%	2.5%	3.5%	4.5%	5.5%	

【基準値と最終目標の設定】

- ・基準値：前期の中長期の平均値
- ・目標値：前期の中長期の最も成果を上げた年度

環境経営目標(営業所)

項目	基準値	中長期単年度目標「本社以外」					最終目標
		2016	2017	2018	2019	2020	
電力 (kWh)	65,489	64,834	64,179	63,524	62,869	62,215	62,215
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
従量電灯 (kWh)	86,546	85,681	84,815	83,950	83,084	82,219	82,219
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
LPガス (kg)	752.1	744.6	737.1	729.5	722.0	714.5	714.5
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
車燃料 (リットル)	93,848	92,910	91,971	91,033	90,094	89,156	89,156
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
二酸化炭素 (kg-co2)	298,649	295,663	292,676	289,690	286,703	283,717	283,717
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
コピー用紙 (枚)	59,065	58,474	57,884	57,293	56,702	56,112	56,112
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
水 (m3)	2,720	2,693	2,666	2,638	2,611	2,584	2,584
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	
産業廃棄物 (トン)	161.3	159.7	158.1	156.5	154.8	153.2	153.2
		1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	

【基準値と最終目標の設定】

- ・基準値：2015年
- ・目標値：2015年から5%削減

環境活動取組結果:本 社

項目	単位	2017 年	2018 年		結果(増減率)		1 人当たり年間使用量		
		実績	目標値	実績	対前年	対目標	2017 年/26.3 人	2018 年/27.5 人	
使用量	業務電力	kWh	74,869.0	未設定	75,901.0	1.4%	—	2846.7	2760.0
	低圧電力	kW	36.0		41.0	13.9%	—	1.4	1.5
	従量電灯 C	kVA	5909.0		5980.0	1.2%	—	224.7	217.5
	電力計		80,814.0	77,217.0	81,922.0	1.4%	6.1%	3072.8	2979.0
	ガス(LPG)	kg	103.9	158.0	99.1	▲ 4.6%	▲ 37.3%	4.0	3.6
	車燃料(レギュラー)	リットル	13,554.2	未設定	14,445.8	6.6%	—	515.4	525.3
	車燃料(軽油)		7,582.5		11,013.6	45.3%	—	288.3	400.5
	燃料計		21,136.7		25,232.0	25,459.4	20.5%	0.9%	803.7
	水	m3	444.0	487.0	464.0	4.5%	▲ 4.7%	16.9	16.9
	廃棄物	トン	40.5	39.1	52.2	28.9%	33.5%	1.5	1.9
コピー用紙	枚	87,500	85,834	89,000	1.7%	3.7%	3327.0	3236.4	
Co2 排出量	電力	kg-co2	37,135.0	33,021.0	38,632.3	4.0%	17.0%	1412.0	1404.8
	ガス(LPG)		312.0	498.0	297.4	▲ 4.7	▲ 40.3	11.9	10.8
	車燃料		51,367.0	60,889.0	61,929.5	20.6%	1.7%	1953.1	2252.0
	計		88,814.0	94,407.0	100,859.2	13.6%	6.8%	3377.0	3667.6
排出係数	業務用電力	0.474(kg-CO2/kWh)		2018 年から排出量を把握する際に用いた電力の排出係数					
	低圧電力	0.441(kg-CO2/kWh)							
	従量電灯 BC								

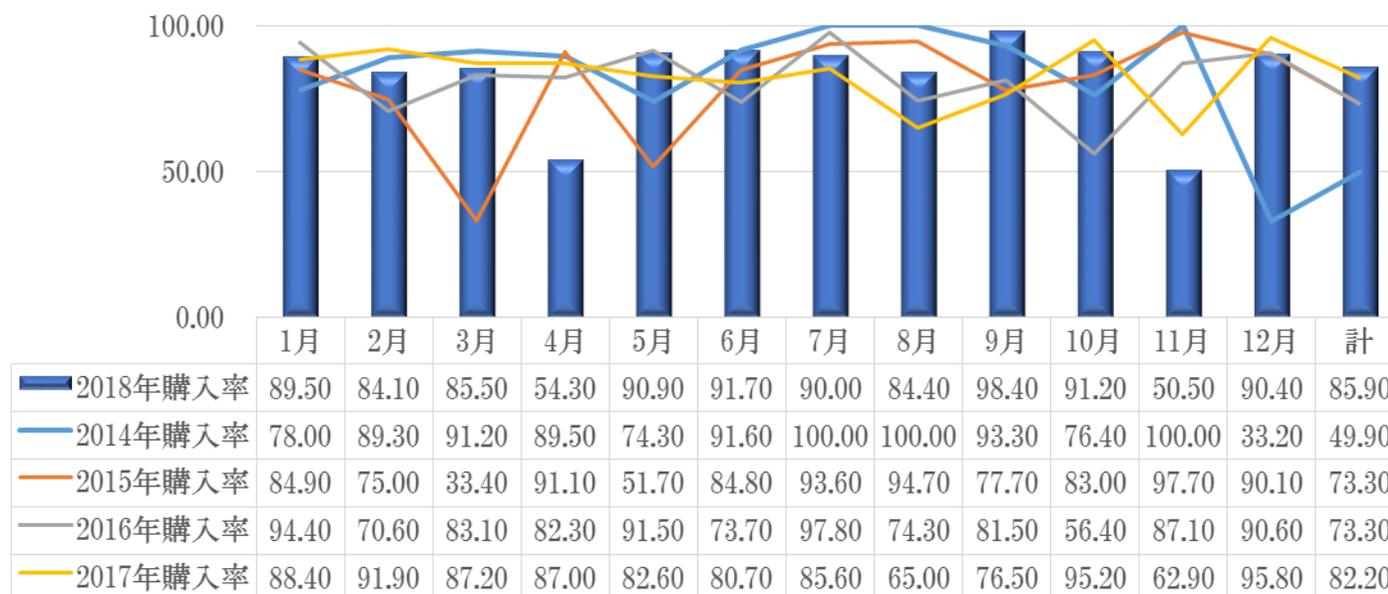
環境活動取組結果: 拠点別計

項目	単位	2017年	2018年		結果(増減率)		1人当たり年間使用量		
		実績	目標値	実績	対前年	対目標	2017年/76.3人	2018年/74.9人	
使用量	低圧電力	kW	58,256.0	63,524.0	56,807.0	▲ 14.2%	▲ 10.6%	763.5	758.4
	従量電灯 C	kVA	89,572.0	83,950.0	83,068.0	▲ 8.7%	▲ 1.1%	1173.9	1,109.1
	従量電灯 B	A							
	ガス(LPG)	kg	687.3	729.5	676.4	▲ 1.6%	▲ 7.3%	9.0	9.0
	車燃料(レギュラー)	リットル	45,553.1	未設定	44,941.0	▲ 1.3%		597.0	600.0
	車燃料(軽油)		51,947.9		41,468.0	▲ 20.2%		680.8	553.6
	燃料計		97,501.0		91,038.0	86,409.0	▲ 11.4%	▲ 5.1%	1277.9
	水	m3	2,502.0	2,638.0	2,717.0	8.6%	3.0%	32.8	36.3
	廃棄物	トン	132.1	156.5	181.4	37.3%	15.9%	1.7	2.4
	コピー用紙	枚	55,700	54,868	53,550	▲ 3.9%	▲ 2.4%	730.0	715.0
CO2排出量	電力	kg-co2	72,690.0	62,676.4	58,112.3	▲ 20.1%	▲ 7.3%	952.7	775.9
	ガス(LPG)		2,063.3	2,190.0	2,029.2	▲ 1.7%	▲ 7.3%	27.0	27.1
	車燃料		242,088.0	224,829.2	211,249.9	▲ 12.7%	▲ 6.0%	3172.8	2820.4
	計		316,842.0	289,689.7	271,391.4	▲ 14.3%	▲ 6.3%	4152.6	3623.4

環境活動取組結果

グリーン商品購入率

環境配慮		2017年実績	2018年実績
グリーン購入	購入率	82.2%	85.9%



環境配慮製品販売実績

キセキ・エコ認定商品

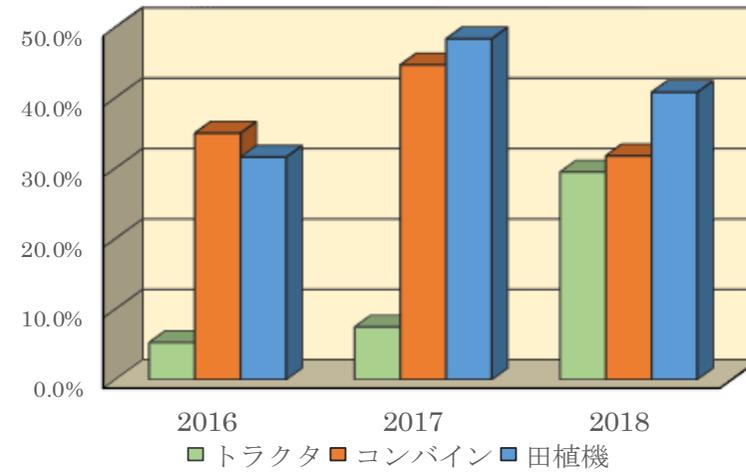
トラクタ RTS・NTA・TJX シリーズ

コンバイン HFC・HFR シリーズ

田植機 NP50～80

エコ認定商品販売率

	2014	2015	2016	2017	2018
トラクタ	—	—	5.3%	7.5%	29.5%
コンバイン	14.9%	15.6%	35.0%	44.7%	31.8%
田植機	11.0%	35.6%	31.6%	48.4%	40.8%



環境活動取組評価: 本社

担当部署	取組項目	評 価
総務部	コピー用紙 グリーン購入 再生品	☆コピー用紙 取組が定着化してきたなかで、この先成果へ結びつけるには限界がある。これからは組織的な取り組みに加え、各自が工夫した取り組みをすることで成果へ繋げたい ☆グリーン購入 購買担当者が環境に配慮した商品を購入するよう心掛けているが、費用面も考慮しているため評価し難い
営業管理部	電 力 ガ ス	☆電力 休日祝祭日を除く日は営業したため年間の営業日数が増え増加したと思える。 取組は 2011 年にデマンドを設置してからデマンドによる監視と空調機の設定温度の徹底できている。今後長期的なものしていくためにも社員のモチベーションを維持することが必要不可欠である ☆ガス 2016 年から屋外湯沸し器の使用期間を設定し 2017 以降は使用を禁止した。また管理と湯沸し時のタイマーや水量調整を継続してきたことが減少につながったと考えられる

環境活動取組評価: 本社

担当部署	取組項目	評 価
施設部	水	2011年9月に漏水工事から2012年には大幅な減少。2013年からはほぼ横ばいの数値できたて2017年にさらに使用量を抑えることができた。2018年は前年と比べ増加にはなったが目標値と2013～2016年の実績に対しては減少したため取組を継続していきたい
販売促進部	廃棄物	製品・部品の仕入及び販売から出る梱包材や修理・整備から出る廃棄物等、仕事量に応じて変動するため排出量の増減からは評価しがたい。 2018年の増加の要因は前年実施しなかった全社による帳票類の処分である。 2019年は社員の分別意識を高めるべく推進を図っていきたい
特販部	自動車の燃料	2015年から減少傾向にあったが2018年は2015年前の実績に並ぶ結果となった。要因は11・12月の閑散期が過去5年の同月期に比べ5割増しになっていた。燃料の消費も廃棄物同様に営業活動に応じて変動するため、エコドライブ10のすすめや安全運転の推進を図るなど運転者への意識向上につながる取り組みを継続していきたい
全社	製品	環境配慮商品の販売推進
	グリーン購入	事務用品等の環境対応商品の優先購入
	環境関連法規の遵守	産業廃棄物の適正処理、マニフェストの交付
		汚水、廃油等の漏れ等による環境汚染防止
	緊急事態への対応	年一回、火災・オイル漏れ時の訓練の実施
社員教育	朝礼の活用、所内での掲示	

環境活動取組評価

担当部署	取組項目	取組項目	評価
営業所 整備工場 系統推進部 育苗センター	省エネ 省資源	電力使用量の削減 運転時間の適正化、適温励行(夏 28℃、冬 23℃) エアコンのフィルタ清掃 無人エリア消灯の徹底	2016 年のスタートから3年目が経過し「電力、ガス、二酸化炭素、コピー用紙」の項目が減少となった。 各拠点を廻るなかで所員にヒアリングするとエコアクションの取組は十分理解している。そしてどれだけの所員が意識し行動するかで成果へとつながる。今後その取組が特定の所員に留まることなく、またマンネリ化状態にならないよう、所員が自発的に行動に移せるよう無理なく負担のない活動をエコアクションの取組として展開していきたい
		水道使用量の削減 節水意識の啓発	
		ガス使用の節約 使用の適正化	
		車輻燃料の節約 運転記録簿 エコドライブ 10 の取組 適正な車両整備(自社・会社)	
	廃棄物	排出量の削減 分別収集の徹底 収集場所の整理整頓	
		コピー用紙の削減 両面印刷、裏面利用 使用済封筒の再利用	
		リサイクル、リユースの推進 リサイクルトナーの使用	

環境関連法規への違反、訴訟の有無

関係する環境関連法規	遵守のための当社の取組
毒劇法	盗難防止に施錠、容器や貯蔵場所には適切な表示
廃棄物処理法	産業廃棄物処理業者と委託契約を締結しマニフェストの管理を徹底する。またゴミの分別を徹底することやゴミ置き場とその周辺の整備に努める
家電リサイクル法	使用している家電製品をなるべく長期間使用することにより、廃棄物の排出を抑制するよう努める。 また排出時には小売業者への適切な引渡し及びリサイクル料金を支払
自動車リサイクル法	自動車をなるべく長期間使用することにより、使用済自動車となることを抑制するよう努める。 また資金管理人への再資源化等預託金の預託義務と引取業者への使用済自動車の引渡しを義務とする
消防法	市火災予防条例に基づく少量危険物の取扱に関する事項の遵守。また当社の消防計画に沿って避難訓練を実施し、計画が効果的かの見直しを図る。
フロン回収破壊法	特定製品が廃棄される場合、フロン類の適正かつ確実な回収、破壊及び排出の抑制に必要な措置を講ずる
悪臭防止法	整備工場において悪臭が発生すると思われる作業については防止対策を講ずる。
浄化槽法	保守点検及び清掃
小型家電リサイクル法	再資源化を適正に実施し得る者に引き渡すよう努める
フロン排出抑制法	第一種特定製品(対象設備)の把握と簡易点検の実施及び記録簿の保存

当社に適用される主な環境関連法規は以上の通りです

当社に関する環境法規に対しての違反の事実や、関係機関等から環境関連法規等の違反についての指摘等は現在のところありません

又、訴訟等も同様にありませんでした

総 評

全社でのエコアクションの取り組みも3年が経過し、全社への浸透も順次図られてきていると感じられています。特に、本年から月次入力の電気、自動車燃料等を即グラフ化してフィードバックし、進捗を把握できるようにしており、より削減意識を高められ結果に結びついているものと思われます。今後も全社取り組みについて、特に営業所への更なる徹底、意識高揚を図るべく、できていないことの把握、原因究明を行い一層のステップアップに繋がりたいと思っています。

また、時の流れと共にエコアクションの取り組みも流れに合わせていくことを要求されています。ひとつに、当社の取り扱いメイン商品である農業機械において、排ガス規制の強化と共に搭載エンジンが順次改良され、同時に環境配慮製品(エコ商品)の開発も図られており、これらの商品を市場に提供することも当社の務めとなってきています。

もう一つは近年声高に叫ばれている「働き方改革」です。時間外労働を極力減らし、従業員にとって快適な労働環境を実現することが企業に要求されています。この実現には従業員には効率的な仕事の仕方が要求されますし、企業としては従業員と顧客満足との折り合いをどうやってつけていくかを要求されます。

一つの取り組みとして、近年、農繁期中の休日確保のため期間中の休日を交代で取らせ、その期間は日曜祭日関係なく営業はしているといった営業形態をとっています。お客様に必要な時に利用していただける企業を目指す上で、こういった取り組みは有給休暇取得を含め、年間休日を増やしていくためにより改良を加え対応していかねばなりません。従業員の休みは確保できるが会社の営業日は減らないといった結果にもなります。エコアクションの管理数字はこれにより増加するかもしれませんが、これからもその時々、最良と思われる選択をしていこうと思っています。